

授業科目	理学療法評価学実習				
担当者	牧之瀬一博（実務経験者）				
実務経験者の概要	牧之瀬一博（理学療法士として慢性期医療施設、通所リハ、訪問リハなどで10年の実務経験）				
学科名	理学療法学専攻	学 年	2年	総単位数	1単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

理学療法士作業療法士国家試験出題基準における、Ⅱ理学療法評価学内の1-A、2-C/E/F/G、3?A/C/E/F、5-Bなどに対応している。

「理学療法評価学」で学んだ基本的な検査測定手技（各種神経学的検査／片麻痺運動機能テスト／感覚検査／MMT/ROM測定／痛みの評価／形態測定）に関する講義・演習・実技を行う。

各種検査の注意点を理解し、学生同士で正確に実施する。また、それぞれの検査測定結果の臨床的な意義について解説する。

その他、臨床場面を意識して、ペーパーペイシエントを用いた演習で障害構造について講義・演習を行う。必要に応じてグループ学習を行い、他者との関わりの中で思考を深める。

■ 到達目標

- ・各種検査法の測定法・注意点について説明できる。
- ・各種検査法を学生同士で正確に実施することができる。
- ・各種検査法の臨床的意義を説明できる。
- ・理学療法評価における解剖学・運動学・生理学に基づいた身体運動を理解する。
- ・ペーパーペイシエントの障害像から評価すべき項目を挙げるができる。
- ・ペーパーペイシエントの障害構造について説明することが出来る。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション、理学療法評価学実習の目指すところ
関節可動域検査（下肢） 関節可動域測定に関する演習・実技
- 第2回 関節可動域検査（下肢） 関節可動域測定に関する演習・実技
- 第3回 徒手筋力検査 筋力測定の注意点（肢位や代償動作など）に関する講義と演習、実習
- 第4回 徒手筋力検査 筋力測定の注意点（肢位や代償動作など）に関する演習と実習①
- 第5回 徒手筋力検査 筋力測定の注意点（肢位や代償動作など）に関する演習と実習②
- 第6回 神経学的検査（腱反射・筋緊張検査・病的反射・片麻痺運動機能テスト）
中枢性麻痺と末梢性麻痺の理解
- 第7回 徒手筋力検査 筋力測定の注意点（肢位や代償動作など）に関する演習と実習③
- 第8回 徒手筋力検査 筋力測定の実技（下肢）
まとめと実技試験
- 第9回 神経学的検査（腱反射・筋緊張検査・病的反射・片麻痺運動機能テスト）
神経学的検査の実技
- 第10回 感覚の評価
感覚検査の意義と病態との兼ね合い／感覚検査の実技
- 第11回 痛みの基本的評価、形態測定
- 第12回 カルテ情報の診方：情報収集とコミュニケーション演習
バイタルサインの診方（測定実技）
- 第13回 ペーパーペイシエントを用いた脳血管障害の障害像の理解
- 第14回 ペーパーペイシエントを用いた運動器疾患の障害像の理解
- 第15回 バイタルサインの測定、関節可動域測定、徒手筋力検査、各種基本的検査法
まとめと実技

■ 評価方法

提出課題（30%）、実技試験（30%）、科目試験〔筆記試験〕（40%）

出席：学生の心得で認められていない欠席や遅刻については減点する（欠席：-4点、遅刻：-2点）

ただし、大学への出席後速やかに届けが提出されればこの限りではない。

また、不良な学習態度（提出物の不備、必要な資料・教科書の忘れなど）は減点対象（1回につき-5点）とする。

小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

予習に関しては都度必要な内容について細かく提示する。大まかには以下の通りである。

- ・第2回講義には、ROM測定における基本軸・移動軸を理解し説明できる状態で講義に臨むこと。
- ・第3-5、7回講義には、下肢筋の走行と作用を理解した上で、それぞれのMMTについて概略が説明できる状態で講義に臨むこと。また、個別に課題を課すため、それを行って参加すること。第4回講義には、グループ内で学生同士での教え合いを行うため、それぞれの担当課題について説明できる状態で講義に臨むこと。第7回講義では、前回のグループ内での教え合いの内容を全員が理解した状態で参加する事。
- ・第9回講義には、中枢神経・末梢神経、錐体路・伸張反射の経路について説明できる状態で講義に臨むこと。
- ・第10回講義には、感覚の経路（温痛覚の脊髓視床路、深部感覚の後索路）について説明できる状態で講義に臨むこと。
- ・第12回講義には、上腕動脈と橈骨動脈の走行と触知部位について復習し、自身の身体で触知できる状態で講義に臨むこと。
- ・第13・14回講義では、それぞれの症例の臨床像を理解するための課題を個別に課すため、それらについて説明できる状態で講義に臨むこと。

■ 教科書

書名：理学療法評価学

著者名：松澤正，江口勝彦

出版社：金原出版

書名：臨床ROM-測定からエクササイズまで Web 動画付き（実践リハ評価マニュアルシリーズ）

著者名：隈元庸夫

出版社：ヒューマン・プレス

書名：新・徒手筋力検査法

著者名：津山直一，他（訳）

出版社：共同医書出版

書名：神経診察クローズアップ 正しい病巣診断のコツ

著者名：鈴木則宏（編集）

出版社：メジカルレビュー社

書名：ベッドサイドの神経の診かた

著者名：田崎 義昭

出版社：南山堂

■ 参考図書

書名：標準理学療法学 専門分野 理学療法評価学

著者名：内山靖（編集）

出版社：医学書院

書名：基礎運動学

著者名：中村隆一，斎藤宏，長崎浩

出版社：医歯薬出版

書名：カラー版 筋骨格系のキネシオロジー 原著第2版

著者名：嶋田智明・有馬慶美（監訳）

出版社：医歯薬出版

■ 留意事項

■ 講義受講にあたって

理学療法評価学Ⅰ／Ⅱと関連が深い科目である。また、この科目の履修後には臨床実習Ⅰがあり、実際の対象者に検査測定を実施することになります。